

2026 年 6 月 12 日(金)午前 9:00 から CRT スタジオで収録

途中まで読んだ本は、読み終わるまで、何度でも、最初から読み直そう

－効果の上がる読書の仕方を考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q 途中まで読んだ本を読み直す場合には、どうしたらよいのでしょうか。

A (1)ちょっと面倒かもしれませんが、「読み終わるまで、何度でも、最初のページから読み直すこと」をおすすめします。

(2)昨日読んだ本の続きを読む場合には、昨日読んだばかりなので、内容の大半を覚えているため、新しいところ、つまり、「昨日の続き」を読んでもよくわかると思います。

(3)しかし、途中まで読んで、しばらく時間が経過している場合には、忘れてしまったことも多いので、最初のページからお読みになる方が、本の内容を理解するのに役立つと考えます。

Q 小説など、登場人物の名前や関係は、なかなか思い出せないこともありますね。

A はい。大内兵衛・茅誠司他著「私の読書法」岩波新書、岩波書店、1960 年 10 月 20 日刊の、大内兵衛氏のエッセイ「このごろの読書」に次のような文章があります。

「戦争前、私の家に、七十ばかりの家番の爺さんがいた。

『大菩薩峠』（という長編の小説）を貸してやったら、彼は、その内の二、三冊を読むと、また何度でも初めから読み返していた。彼の話によると、三冊目くらいになると、初めのほうを忘れていくのに気づく。

そこで、もう一度それを読み返したくなるので、初めから読んでみると、人物の名前まで、すべて初めてのような気持ちになるから、これを繰り返すのだといていた。

私もその類(たぐい)である。

枕頭の書としては、マルクスのもなど、重くて不適當であるが、このころ選集が出て、それに対して、私も責任があるので、それが出るたびに読み返してみると、何度も読んだことのあるものは、その重さがちょうどよく、しかも何か新しいことをその内に発見する。

特に、彼の政治論文などは、今を考えつつ、薄暗い天井に地図を描いてみるなど、興味津々たる

ものがある。」(同著 52 ～ 53 ページ)

Q たしかに、二度目、三度目の時は、細かいところまでよく読めます。依然読んだ本を最初から読むことの「効用」は、ほかにもありますか。

- A (1)「それまで学んだことを 100 %理解していると、新しいことを 100 %理解する可能性が高まる」
- (2)「それまで学んだことをよく理解していくと、新しく学ぶことをよく理解することができる」
- (3)これは、小説はじめ、様々なジャンル(分野)の本を読むときも同じで、1 冊の本を読む場合に、それまでに読み終えた内容をよく理解していると、それから後の内容がわかりやすいといえます。
- ですから、ちょっと時間をおいて、途中まで読み終えた本を読み直す場合には初めから読み直すと、わかりやすいと考えます。

Q 途中まで読んだ本を、もう一度読む場合に、初めから読み直したことがありますか。

- A (1)あります。たくさんあります。
- 例えば、「ビッグコミックオリジナル」という、毎月 5 日と 20 日の 2 回出るマンガ雑誌が好きで、40 年以上読んでいます。「ビッグコミックオリジナル」は、マンガ雑誌の中でも、質の高い作品が満載です。しっかりした、読みごたえのある原作が多いので、続き物の作品を読む場合には、何回か前の号の作品を同時に読むと、作品の理解がさらに深まります。
- (2)夏目漱石やシェイクスピアの作品は、奥が深いので、途中まで読んでしばらく時間がたっている場合には、途中からでは理解が困難なため、初めから読み直しています。
- (3)ただ、中編や長編の名作は、一度読み始めたら、最後まで読み通すことをおすすめします。登場人物が多い場合には、人物相関図を自分で作りながら読むと、最後まで読み切れることが多いと思います。
- (4)学校の教科書や、何か新しい分野の教科書や参考書など、知識や情報を得て、自分のものにするために本を読む場合には、新しいページに入る前に、今まで学んだことをもう一度復習するために一度目を通す、できれば、1 ページから「声を出して読む」「音読」なさることを、おすすめします。
- (5)学校の授業の前には、今まで学んだことを、教科書や授業ノートの 1 ページから前回の授業範囲まで「目を通す」と、とてもよい復習になり、「新しいことが、よく理解」できると考えます。
- (6)一度読んだ内容をもう一度読み返すことは、学習効果を高める「効果の上がる勉強の方法」です。
- 是非、ご挑戦ください。

Q 最後に、一言、本を読む際、これをやるとよいことがあれば、お話しください。

A (1) 小さなノートでよいですから、ノートを一冊、「My 読書ノート」として用意。本を読み始める前に、作者名(著者名)「書名、副題(サブタイトル)も」「出版社」「刊行日」を記入。読み終わったら、「読了日」を記入。

○「書き抜き読書ノート」という名前の「読書ノート」も素晴らしい。

(2) 気に入った「文章」や「語句」に出会ったら、たとえば、「一行」「一文字」でもよいから、「記念に書き写す」ことを、おすすめします。

(3) 途中で、この「読書ノート」を使わなくなったらどうするか。しばらくしてまた使いたくなったら、再開することをおすすめします。

(4) 人生は長く、今、10 歳の人の半数は、105 歳まで長生きできるといわれていますので、諦めることなく、何回でも、この「読書ノート」にご挑戦ください。1 年に 1 ～ 2 冊でも、素晴らしい「記録」になります。

(5) 読んだ本でよいと思った本があったら、ご家族やお友達、身近にいる方に、是非その内容や感想をお話になることを、おすすめします。質問や感想などをお受けするうちに、理解が深まり「自分のことばで(本から)学んだことが言える(表現・説明できる)」ようになります。

(6) 同時に、「おすすめの本」を教えていただくことも、とても勉強になります。

「学びの共同体」を小さなグループでつくり、気軽に参加。切磋琢磨し合うと、励まし合う仲間づくりに繋がると確信します。